第８回山梨県高等学校審議会　会議録

（平成３１年２月２２日掲載）

１　日　時　　平成３１年１月２５日（金）　１３時３０分～１５時１０分

２　場　所　　県庁防災新館教育委員会室

３　出席者（敬称略）

（委　員）　岡本新一　兼清慎一　河野侯光　小林仁　佐野勝彦　佐野誠
中井道夫　中村和彦　八田政久　古屋武人　松野実　武藤岳人

（事務局）　教育次長、教育監、次長、学校施設課長、義務教育課長、高校教育課長、
高校改革・特別支援教育課長、産業人材育成課長、教育委員会主幹、
高校改革担当（5人）

４　傍聴者等の数　４人

５　会議次第

○　第８回審議会

１　開会
２　会長あいさつ
３　議事
４　閉会

６　会議に付した事案の案件（又は議題）

（１）全日制各学科（普通科・専門教育学科・専門学科・総合学科）について　【公開】

①　将来のイノベーションリーダー・グローバルリーダーの育成
②　本県地域経済を支える産業人材の育成
③　多様な分野の人材の育成

（２）その他　【公開】

７　議事の概要

（１）議題１「全日制各学科（普通科・専門教育学科・専門学科・総合学科）」

（議長）

それでは本日の審議に入りたいと思います。

まず第1号議案「全日制各学科」具体的には普通科・専門教育学科・専門学科・総合学科についてであります。事務局の方から御説明お願いいたします。

（事務局：「全日制各学科」について資料1により説明。各学科等の制度について説明。）

（議長）

ありがとうございました。

ただいま事務局より、資料1及び参考資料によりまして学科の状況等説明がありました。資料2以下、まだ御説明が残っているところですが、学科等につきましては、分野も幅広く、制度としてもかなり難しい面もありますので、一旦ここで、現在の山梨県立高校の学科の状況等について、御質問いただいて理解を深めてから、次に進みたいと思います。

何か今までの説明の中で御質問等はございますか。

特によろしいですか。

今回は、本審議会で整理した、長期構想を考える上での論点を用いまして、各学科の今後の教育のあり方を、３つのカテゴリーに分けて考えていくこととなろうかと思います。それぞれのカテゴリーにつきまして、一つ一つ検討を進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、最初に「将来のイノベーションリーダー・グローバルリーダーの育成」について説明をお願いします。

（事務局：「将来のイノベーションリーダー・グローバルリーダーの育成」について資料2により説明。）

ありがとうございました。

まず初めに、「将来のイノベーションリーダー・グローバルリーダーの育成」について検討していきたいと思います。

日本の経済あるいは社会などさまざまな分野で日本を牽引する人材の育成という観点から、御意見いただければと思います。前回、グローバル人材につきまして審議しましたが、重なる内容でもかまわないと思いますので、みなさまから御意見をいただければありがたいです。いかがでしょうか。

（委員）

趣旨はよくわかるんですが、前に話したのは国際バカロレアとか本当に公教育としてそこに行くのが良いのかどうなのか。一応、もう、やるという話になると思うのですけれど、その将来を考えたら、国際バカロレアは民間資格ですから、その民間資格に、公的な費用を導入してそこまでやる価値があるのかないのか。ということと同時に、すいません、やはり非常にわかりづらいと思うんですよね、この科とコースと。多分中学校やそのほか、一般社会の保護者の皆様には、理数と英理総合とか、理数創造等と理数で何が違うのかと。これは非常に学校選択する上では、一般の方とか保護者の方はわからないと思います。

正直言うと探究科もそうなんですけれど、探究科と言う言葉が出てきたのは、京都の市立の●●高校が、学校が底辺校だったところを少しでも再建するためにそこに行きまして、今度は探究的な学習の時間が配置されますから良いんですが、じゃあ探究的な学習の時間に特化した科になるんですかと言ったら、違いますよね。

元々の理数科の設置というのは、その時代のことをちょっと知っている立場からすれば、山梨医科大学に少しでも山梨県の人材が入らなければ、山梨県の医療が滞るからという目的は分かります。それと併せて体育科を作って、今度ここで見直しをする時、これだけ多くのコースと専門学科があると、受験生と言うか、現場の中学生とか、どういう選択をして良いのかが非常に分かりづらい。ですから、もう少しシンプルに考えていただけないかな、という風に思います。生徒も多分、非常に、じゃあここの学校とここの学校の違いは何なんだということ、この科とこの科の違いは何なんだということが明確に理解できないと思います。イノベーションと、今のはやりの言葉でどうしても行くと思うんですけれど、語学にしてもそうだと思うんですけれど、4技能と言うことがありますから、どんどんどんどん大学の方でも、大学の先生方はあれだと思うんですけれど、4技能は多分一年間ではスコアが弾き出せないから、高校入学の時にも、もうスコア持っていれば良いよとか、そういうところに方向が行きますよね。ですから今ここでこうしかない、みたいな形で決めるんではなくて柔軟な対応が必要だと思います。と同時に、もう少しシンプルに、公教育ですから考えた方が良いと思います、実際。

私は本当に、普通科と総合学科、総合学科だけでは当然授業時数として足りないんであれば、工業、商業、農業、その他に生徒のニーズを見れば体育科とか観光科、介護科ですか。必要ならば、そういう新プランの考え方をした方が良いのではないかなという意見です。

（議長）
　ただいまの意見に関しまして、事務局の方から何かございますか。

（事務局）
　これまでの過程や経緯を見ますと、全県一学区になる中で、県全体でさまざまな教育の場所を用意をするという考えの下に、現在の形になっているものでございます。各学校では、6～8月にかけて中学生あるいは保護者や先生方を対象に、説明会も複数回行っておりますので、なるべくそういった内容の周知ということにつきましては努力をしているところでございます。そんなことで現在の形になっていると御承知願いたいと思います。

（委員）
　●●先生にぜひお伺いしたいのですが、シンプルにというのは、先生が一番問題意識としてもってらっしゃるのは単位制とコース制のあたりが分かりにくいということでしょうか。

（委員）
　コースと学科でまたがっている部分です。

（委員）
　コースと学科でまたがっている部分がもっとシンプルにと。それは逆に言うと、事務局にも伺いたいと思うんですけれど、そこはもうちょっと整理をしていくというお考えはあるのかどうか。それぞれに僕は詳しくないので、もうちょっと教えていただければ、と思います。

（事務局）
　特に専門教育学科ですけれども、これは国の方で縛りがありまして、これは専門教育学科のみならず専門学科、農業、工業、商業もそうなのですが、文科省の方で25単位、専門教育の科目を取りなさい、履修しなさいという縛りがございます。ですからかなり専門性も高い科目を学ぶ形になります。これが専門教育学科、専門学科になります。
　コースは、普通科の中において山梨県では6校に設置をしているわけなんですが、あまり縛りを置きません。その学校が作っているコース、その専門性に対して6単位。履修単位プラス専門の6単位を取りなさいということを教育委員会でルールを作りまして設置をしています。そのような違いがございます。

（委員）
　そこに違いを感じるかということですね。

（委員）
　そうですね。

（委員）
　保護者の方や生徒たちがということですね。

（議長）
　多分、分かりやすいというか、この高校ではこういうことをやっているんだ、ということが明確になるような仕組みを作ったり、組織を作ったりし、募集していくということだと思います。

（事務局）
　補足説明させていただきたいと思います。ちょうど今月の4日だったでしょうか。某新聞紙上に出たものなのですが、今、国の方で普通科を改革をしていきたいという動きが出ているよ

うです。当課の方でも、どういう形になるかは早く情報収集をしなければなりませんので、文科省に出向している職員には分かり次第教えてもらいたいということで、情報収集に努めています。現在進行形でそういうことが行われているということにつきましてアンテナを張っているところでございます。そのような動きがあることは御承知おきいただきたいと思います。

（議長）
その他ございますでしょうか。

（委員）
イノベーションリーダー、グローバルリーダーをどうやって育てていくかということについて、他県の事例ですとか、山梨県ではまだ取り入れてないようなもの、例えば中高一貫教育とかですね、何かそういったもう少し事例をですね、知りたいと思うのですが、その点はいかがでしょうか。

（事務局）
今、中高一貫教育という話が出ましたけれども、中高一貫教育に関しましては、数年前の山梨県高等学校審議会へ教育委員会で諮問をして、平成24年に答申をいただいてまして、その答申を受けて現在、連携型の中高一貫教育を今年の4月から身延高校と身延中学校、南部中学校の間で正式に導入するという形になっています。
ただ連携型の中高一貫教育は、教育課程の自由度がない形でして、以前中高一貫教育の話が出たときには、併設型と言って、6年間の教育課程を見据えた形、今、私立高校でされている形の話が出た経緯がございます。実際には、現在県立には併設型の中高一貫教育は1校もないという現状です。これにつきましては、後日審議をしていただく方向で議題に上げて話をさせていただく予定になっておりますので、手元には全国の様子等はありませんが、その際に御審議いただければありがたいと思っております。

（議長）
よろしいでしょうか。中高一貫教育につきましては他県の状況のことも出していただきながらこの高等学校審議会で審議していきたいと思います。
他にございますか。

それでは、次の議題に移ります。「本県地域経済を支える産業人材の育成」の説明をお願いします。

（事務局：「本県地域経済を支える産業人材の育成」について資料3により説明。）
（事務局：「山梨の未来を担う人材育成検討委員会における検討状況」について別冊参考資料により説明。）

（議長）
ありがとうございました。②の山梨県の地域経済を支える産業人材の育成というところで、ただいま産業労働部の●●課長の方からもお話がございまして、人材育成検討委員会での検討状況についてもお話しいただきました。県全体としての人材育成の検討状況も含めて御説明いただきましたが、「本県地域経済を支える産業人材の育成」につきまして議論を深めたいと思います。何か御意見ございますか。

（委員）
産業分野、農業分野ということで委員をさせていただいていますので、発言をさせていただきたいと思います。事前に本日の資料を送っていただきまして、見たんですけれども、先ほど

おっしゃられましたように、私どもの高校時代に比べて、なかなか15歳の選択としては選択が非常にえらくなっているな、というのを、先ほどの議論の延長になるわけでございますけれども、私もそのように感じたところでございます。

さて、本論の方ですけれども、実は先日、私はアイメッセの、農業・工業・商業が連携しました農商工連携フェアと言うものに行って参りました。御承知の通り、農商工連携というのはですね、農業、商業、工業が連携する中で、お互いの知識や技術を持ち合う中で、新しい商品とかサービスを開発して行こうというものでございます。行きましところ、このフェアの中に、農家が製造業の力を借りて商品を作った加工品とかですね、逆に製造業の方が農家の原料を受けて製造して、また商社と連携する中で作った加工品等々がですね、食品なんですけれども、加工品を中心に発表されていました。御承知の通りですね、先ほど申しましたように農商工連携というのは産業間の連関を図ることによりまして新しい商品やサービスを開発する中で、農業はもとより製造業も商業も共に活性化を図っていこうという取り組みで、山梨の産業の再生とか山梨の産業の創造なんかに大きな効果があるんじゃないかと、そういう風に考えております。こういう中で、農商工連携の取り組みをあらゆる分野にも、普遍的に取り組みの観点を導入していくことが必要じゃないかな、という風に考えております。

つきましては、今後、産業間を連携しました産業なんかを興しながらですね、本県の活性化、農業の活性化、工業の活性化等々を目指すために、本県産業界を担う人材につきましては、農業は農業、工業は工業というのではなくて、一本の知識や技術を具備するということではなくて、トータル的な知識とか技術を具備した人材が必要になってくるんじゃないか、という風に考えております。このためには、先ほどから議論になっていますように、産業界を支えていく人材育成を教育する上でも、産業間を連携するような幅の広い実践的な知識や技術を持った人材を教育していくことも、教育として必要じゃないかな、という風に考えています。

先ほどの資料にありますように、農業大学校で行きますと単純には養成科、専攻科という区分けになっているわけでございますけれども、もうすでに農業大学校の場合は、このくくりを農業と言うよりアグリビジネスと言う格好で捉える中で、教育を行っておりまして、例えば食品の製造、販売、パッケージ、と要するに農業の付加価値を付け、また他産業と連携した知識を持ってあらゆる分野で活躍できる人材という格好のものを実践しておりますので、先ほど申しましたように、各産業が連携できるような、知識を持った人材の育成も必要ではないかという風に思っております。

（議長）

何か事務局の方からありますか。

（事務局）

今日は、産業人材という視点での議論と言うことで考えていましたところ、産業界の委員さんが2名欠席という連絡をいただきましたので、前もって何か意見がございませんかと伺って意見をいただいております。産業界の代表と言うことで●●委員からこのような御意見をいただいております。

2点になりますけれども、一つの意見は、●●委員がおっしゃられたこととまったく同じことになりますけれども、こんな意見をおっしゃっていました。工業や農業、商業といった学科の垣根を越えた学習が今は必要になってくるんだということ。工業系出身者が農業の工場ですとか、水産工場で働くケースも出てきていると。ですから、そういった垣根を越えて横断的な学習ができるようなことも考えていくべきではないか、ということが一つ。

もう一つは、産業界の人材が今学校へ出向いて講義をしたり、意見交換や情報伝達などのコミュニケーションを図るような機会を持っているんだけれども、それがもっと広く、学校の方で単位が取れるような授業、そういったものを設定ができないものか、というような御意見をいただいております。

現状は、甲府工業高校に技能検定3級取得の対策講習のために出向いたり、あるいはインターンシップを実施しているそうです。あるいは産業技術短期大学校においては、早い段階で県

内企業の様子を情報として紹介することを実施しているけれども、驚いたというか、意外だったのが、産業技術短期大学校の8割の生徒が県内での就職を希望しているということが分かったと。実態はなかなかそうもいかないところもありますが、希望が早い段階では、8割が山梨で就職をしたいという希望を持っていると。ですから、こういう希望を大切にして、それが実践できるような方法を考えてもらえないかと。そういうふうな意見を頂戴しております。

（議長）
　他にいかがでしょうか。

（委員）
　本県地域経済を支える産業人材の育成ということなんですけれども、産業人材の育成ということに関してですけれども、先ほど資料で、高度な技術を求める方向に対応していくと、より即戦力や専門性という話がありましたけれども、確かにそういう声がある一方で、こういう話もよく聞くんですね。専門的なものに関しては当社に入社してもらえば、2、3年いただければそこできっちりと教育はできます。
　したがって、専門性も大事なんですけれども、人から何か教わるときにちゃんと素直に聞く心とか、コミュニケーションができるとか、そういう基礎的なところもやはりしっかりということがすごく重要なので、そういうところも当然ですけれど、素直な心を持った人がほしいです、と言われます。なぜかと言うと、企業は新卒採用がなかなかできなくて中途採用に頼っているんですね。中途採用の場合の悩みというのは、違う会社で色がついてしまっているので言うことを聞いてくれないそうなんですよ。だから、本当に素直な心を持っている人に一から教えたいというニーズがすごく強いので、そういうことも重要だと、このように思います。
　よく言われるのは、昔に比べて、製造業ですけれども、ものづくりっていうものに対する興味とかが低くなっていると。あまりものづくりやりたいという子が減っているような印象を受ける、と言われる方がいます。したがって、もし教えるのであれば、ものづくりって面白いよなあ、とか興味とかやりがいとか面白さとか、そういうものを味わえるようなものがあると、より製造業に進む人やいろいろな産業界に進む人が増えるのかなという風に感じております。
　もう一点なんですけれども、②のところで、本県において、本県地域経済を支える、という風に書いてあります。やはり大事なことは、山梨で働いてもらうということがすごく大事だと思います。そのときにいつも、高校生たちと話すときはこういう話をするのですけれど、県内で働くということは、山梨で暮らすということとすごく密接な関係が当然あるわけです。山梨で働くということは、山梨ライフをするということです。県内を出て、東京で働くことは、東京での暮らしがあるわけです。そう考えると、山梨暮らし、東京暮らし、それぞれメリットとデメリットと必ずあると思います。東京だったら、働く場所の選択肢が多くて初任給は高いかもしれませんが、通勤時間は90分になるとか、通勤時間30分以内というところにマンションを買ったら6,000万円するとかですね。そういうメリット、デメリットが両方あるわけですね。山梨の良さも悪さも。そういうことを、働くっていうことと暮らすっていうことをセットで教えて、山梨で生まれたから山梨でいいや、ではなくて、この山梨がいいや、という風に確信を持って山梨で働きたいという風な思いをちゃんと説明するということも大事かなという風に思います。

（議長）
　他にございますか。

（委員）
　お伺いしたいのですけれど、産業技術短期大学校とかそれぞれですけれど、高校の職業学科ですよね、農業大学校でしたら農林高校ですとか笛吹高校とか。そこから実際進学している子たち、高校を考えなければいけないので、進学している子たちはどのぐらいの数がいるのでしょうか。何割ぐらいになっているのか、というのが知りたくて。実は、本校普通科ですけれど、

産業技術短期大学校にも宝石美術専門学校の方にも農業大学校にも行っています。山梨で仕事したいという子は行っています。宝石美術専門学校は、うちには美術デザイン科があるので、毎年数名ずつ、地場の産業に行きたいという子は行っているのですけれど。実際、先ほどこうの委員のお話をお伺いすれば、さまざまな分野を知っていた方が良いということになれば、私もそうは思っているんですけれど、総合学科ということの必要性が高いんではないかなと。産業界から言われれば産業はそういうところが高いんではないかなと。今、実際生徒のニーズが、例えば普通高校から行っている子たちがはるかに多ければ、やはり先ほど言われましたよう15では選択できないから、18になったときにやっぱりここ行きたいと思ってそこから選んでいるのかなというのが。今度は、工業の専攻科もできますよね。ですからその辺も含めて、実際どのぐらいの人数が行っているか教えてもらえたらありがたいです。パーセンテージで良いですけれど、わかりますか。

（事務局）
今の御質問ですけれども、正確な数字が今手元にないのですが。今の4つの機関ですけれども、宝石美術専門学校は、公的な公共施設での専門のジュエリー関係は唯一ということで、4割ぐらいは県外からきていますが、6割は県内。その他の3つの機関につきましては、ほとんど県内の高校から進学しているという状況になっております。産業技術短期大学校につきましては、以前では専門学科からの進学、工業系からの進学が多かったんですが、最近は普通科からの進学というのが5割をちょっと超えるぐらいになっております。その他もほとんど高校生が進学しているということで、今度就職の方は、やはり県内就職というのが8割ぐらい、県内に就職している状況になっております。

（議長）
今、アドミッションのところで、入学のお話だったと思うんですけれど、逆に卒業、各大学校とか専門学校を卒業される方は、こういう専門のところにほとんど就職されているという考えでよろしいでしょうか。

（事務局）
ほとんどが関連している分野に就職をしております。

（議長）
うらやましいですね。うちの学校は入るときは95％が教員を目指すんですけれども、だんだん低下していって、4年になると6割ぐらいなってしまうので。逆に、先ほどの●●委員の話じゃないですけれど、何かコツですか、持続させるというモチベーションをと、そういったこともあります。
はじめのテーマについてはよろしいですか。

（議長）
それでは、3つめのテーマに移ります。
今度は「多様な分野の人材の育成」というところでございます。事務局から説明をお願いします。

（事務局：「多様な分野の人材の育成」について資料4により説明。）

（議長）
「多様な分野の人材の育成」についてですけれども、社会も多様化しておりますが、子どもたちも多様化している実態があると思います。それだけさまざまなニーズがでてきているという風に思います。それらを踏まえた人材育成ということになりますが、ここでは職業科以外の普通科や総合学科での学びも主と考えまして、産業人材と重なる部分もあるかと思いますが、

全体的でも結構ですので、みなさまの忌憚ない御意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

（委員）

老人福祉の代表ということもありますが、私たち福祉・医療系が、多様な一つに挙げられているというのがどうかということが出てくるんですが、私たちはこれから多分かなり多くの人材が必要とされる、むしろ主流の一つだと思っています。その中で、実際には若い入り手がいないっていう現実が今あるんですね。でもその中でも、先ほどの参考資料の一番最後のところにもあるように、中3の生徒の中で、福祉系は7.8％なんですが、親とか中学校の教員の中では、看護・福祉はものすごく高いニーズになっているんですね。その辺はもう多様な一つではなくて、本気で考えてほしいと。そうした人材も必須分野として取り入れていただきたいと思っています。その中で、先ほど農工商にわたってということでお話がありましたが、福祉分野もほとんど同じことなんですね。今これからは、われわれの分野の中では、地域共生社会をというように、これは私だけではないんですが、やはり世代とか職業を超えて地域を支え合っていくと。その中でわれわれ福祉の人材が中心的な役割を担うわけなんですが、割と、今われわれ全体を含めてですけれど、その垣根を越える人材ってなかなかいないんですね。われわれの世代でも実際に、そこでリーダーシップを取ってやっていける人材がどれほどいるかと言ったら、なかなかいない現実があります。その中でやはりこれから育っていく方、生徒、学生にですね期待するところでもあると思います。ただ、実際に今われわれが採用する人材の中で、さあ、その福祉・医療系の中でどうしてもやはりその主流じゃなくて、あくまでも下支えをする、ごく下という言う方はないんでしょうけど、どうしてもですね報酬が低いとかですね、3K、きついとかですね、そういったイメージが先走っている中で、今政府の方でもそれを払拭するような政策が打たれているのですが、実際にはそうではなくてですね、大分変わってきています。年々変わってきていますし、先ほどのICTの導入などもかなり進んではいます。ただやはりICTを導入する中で、やはりそこに抵抗があったりと、なかなか、携帯電話を使えてもパソコンは使えないとかですね、そういったことが実際に起きています。なおかつわれわれ福祉の職場にあって、コミュニケーションをする仕事であるんですけれども、公然と自分は人見知りですって言う。自己肯定感は良いんですけれども、なかなかじゃあ人見知りであったらこの仕事はどうだって。利用者さんともちろん接する。お年寄りは良いんだけれど、そうじゃない方にはちょっと難しいとかですね。なおかつわれわれの中では、業界的に裾野はどんどん広くなっているんですが、そこをとりまとめる人材ってなかなかいないです。介護っていうと、現場で介護している職員のイメージがあるんですが、そこはどうしても一人ではできないので、チームを作っていくんですね。そのチームを作るときのリーダーとなると、仕事が良くできるからリーダーをやってほしい、と声をかけると、人をまとめたりするのは苦手です、私はやりたくない、っていう方、若手が多くてですね、そうは言ってもということで、もちろんわれわれの企業側がそのフォローをしながらリーダーを育てていくのも大事なんですが、そもそもの根底の中にそういったマインドが育成されているか、その根底にあるかと言ったときに、その辺りが教育というところの中で少しでもあると助かるというところはあります。何かそのときにやはりマネージャーとして、と言ったときに、そもそもマネージメントと言った時点でその意味は分からない。高校生からということだけじゃなくて、もっと上の専門学校や4大を卒業して入ってきても、その時点で手を引いてしまうということがあります。もちろん分かりやすくわれわれが努めていくっていうことも大事なんですが。最近の傾向なのかちょっと分からないのですが、もうちょっと上に、上昇志向、野心を持ってくる子がいると育て甲斐があるというかですね、そういったところが不足しているかなっていうのをすごく感じているところであります。先ほどのイノベーションリーダー、グローバルリーダーって言われますが、もちろん大切だと思います。これから必要なリーダーだと思うんですが、本当に地域をまとめるリーダーとか、もっと身近なリーダーというところの育成も考えていただいても良いと思いますし、今まさに必要としているところでありますので、ぜひ考えていただけたらと思います。

（議長）
　他にございますか。

（委員）
　先ほどもちょっと出たんですけれども、普通科のコース制ということに関して、今の委員の話も若干関係するかもしれませんが、先ほどの参考資料を見るとコース制というところは、各都道府県で独自に基準と書いてあるので、おそらく時代のニーズに合わせて各県が独自に基準を設けていっているのかなと、ちょっと捉えたんですけれど。だとすると、まさに先ほど、グラフの中では看護とか福祉にニーズがすごくあるので、一方でそういうものが普通科のコースになっても良いのかなとちょっと思ったんですけれど、参考資料の2ページなんかを見ると、コースってみんな英数理オンリーになっている印象があったんで、なんで英数理だけに偏っているのか、素朴な疑問です。先ほどコースと学科の違いというのがあって、学科は25単位をちゃんととらないとならないということだったんですけれど、それに対して普通科のコースはもうちょっと緩い感じという話がありましたね。例えば少し私は学科にいくほどじゃないんですけれど看護とかにちょっと興味があるんです、っていう人は普通科のそういうコースがあれば、ちょっとそこで緩く学べるというか、そういう選択肢があっても良いのかなという風な印象を持ちました。その中で、各都道府県で独自に基準ということになるなら、ここからは質問なんですけれど、他県も普通科の中のコースって基本英数理なのか、それとももっと独自のものが存在しているのか、もし分かったら教えていただきたいと思っております。

（事務局）
　お答えいたします。他県の普通科のコースの例ということで、先ほど以来御説明したとおり、普通科に設置されるコースは国で定めた制度ではございません。各都道府県でそれぞれ考えながら設置しており、当県では6単位ということになっています。山梨県は確かに現在理数系コースが中心でございます。これは今の構想の前身の平成8年の構想の際に設置されていったコースでございます。他県の事例でございますけれど、全国見渡しますと、理数系のコースだけでなく、外国語コースですとか国際教養コース、あるいは人文科学コース、芸術、スポーツ科学など以外にも、キャリア教育を強く意識したものもございまして、例えばビジネス情報コース、福祉教養コースなどさまざまなコースが設置されています。地域のニーズを反映いたしまして、キャリア向けのコースと進学向けのコースを併せて設置されているケースもあります。当県では、コースは1学校に1つとしておりますけれども、同じ学校に2つ、例えば進学コースと福祉系のコースが設置されていて、1年生の段階では共通の学習をして、2年生の段階では興味・関心によって、進学をするのか、あるいはもう少し意識付けをするような、福祉のコースに行くのかという選択ができるような柔軟性を持ったコース対応をしている県もあるという状況でございます。

（委員）
　●●先生に伺いたいんですけれども、今回、多様な社会や変化に対応するように、教育機関の方が対応していくということ自体には賛成で、時代の変化に応じて教育機関も変わらなきゃいけないなとは思っているんですが、一方で、会社ではないので、どこまで変化に対応するということをしてゆくか、特にこの審議会は長期構想というものを考えるんですけれど、現場の先生方の負担であったり、現場での対応が、現実的にどこまでできるのか、とかいうことをですね、あまり高等学校の現場を知らないものですから、ちょっとイメージができなくて、このようにどんどん先生の教員生活に変化があると思うんですけれど、高校というのはどこまで、こういった変化に柔軟に対応していけるものなのかな、というのを、ちょっと漠然とした質問で恐縮なんですが、教えていただければと御質問させていただきました。

（委員）
　とても難しい質問で、私が答えられるのかどうかということがありますけれども。例えば、

今話が出てきた、福祉系のコースがあっても良いんじゃないかというお話でしたけれども、例えばうちの学校に福祉系のコースが一つできたとすると、福祉系の教員分を準備しなければいけない。その福祉系の教科ができる分の教員を準備しておかなければいけないんですけれども、例えば今うちで言うと、今理数コースがあるんですけれども、40人のためにほぼ一つの学校分の教員を用意しなければならないという形になってしまいます。ですので、その準備のためなのが総合学科で、いわゆる系列という形でその中に、城西高校だと280人近く生徒がいると思うんですけれども、そういう学校を準備して、それぞれで選択していきなさいという形になると思うんですね。例えばうちの理数コースみたいなところですと、普通科とほぼ、教員としては、いる人間は変わらなくてかまいませんので、うちは普通科と理数コースがどれだけ違うかと言うと、1年生で3時間多くやるか2時間多くやります。2年生3年生で3時間ずつ普通科の子たちよりは多くやっています。その分は理科と数学に割り当てています。で、理数コースという名前になっていますけれども、そのぐらいの違いで、実は、●●先生のどれだけ違うんだという質問には非常に答えづらいところがあって、じゃあうちの理数コースはどんな授業をしているんだ、と言うと、甲府南高校の理数科に非常に近い授業になっています。科、専門学科の科と同じように。じゃあなぜ普通科でそんな授業をしているんだ、となるとそれまた答えづらいというところがありまして、●●先生への答えになっていないんですけれども、実はそういう風になっています。普通科の中では確かに若干ですけれども数学・理科の多いコースですよ、という説明で大体納得してもらえるんですが、隣の理数科とどう違うんですか、という説明はなかなか難しくてモゴモゴと言うしかできないという部分が実はあります。で、先生のおっしゃる、どれだけ対応できるかという部分ですが、やはりその教員の資質、要するに福祉の先生たちがたくさんいないと回らないとなると、今のうちの学校にはとてもおけませんという話になってしまいます。ただ、先ほどちょっと事務局から話があったように、この間東京に出張があって行ってきた時に文科省の中では、普通科の中のコースを考えようということ、大きく変えようという風なことを考えているらしいという情報はもらっています。ただ、普通科の中にコースをおいたときの教員はどうするんだ、ということはちょっと心配にはなっています。答えになってないと思いますが、以上です。

（議長）
よろしいですか。今、お話が出て、先ほど事務局からもお話が出ましたけれども、先だって新聞上で国の動きとして、普通科についての改革ということが出てきたんですけれども、これについて、何か事務局の方で情報をお持ちでしたら少し御紹介いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

（事務局）
新聞報道に関しまして、中間報告を入手したところでございますけれど、その中では本年の4月から5月の最終提言のとりまとめに向けて、さらなるワーキンググループで検討するということになっております。ですので、正確なところはまだわからないという状況でございますが、新聞報道にありましたように、主に高等学校の普通科の学習内容について、生徒の多様化に対応していくというような方向で検討が進んでいると言うことは確かなようでございます。当然本長期構想に大きく関係していく部分になると想定されますので、情報の方は入手ができ次第委員のみなさまにはお示ししていきたいと考えております。

（議長）
まだ確定したものではないというお話ですけれども、国でもこういったことに関しまして検討が進んでいるということですので、また今後情報が入りましたら、御提供いただきまして、本審議会でも、それを持ってきて議論していかなければならないという風に思います。
その他多様な学びということに関しましていかがでしょうか。多様な分野の人材の育成ということに関しまして。

（委員）
　何度も言ってすいません。多分普通科の教育ということなんですけれど、新しい学習指導要領でも単位はこういう方向で行くと決まっていますよね。歴史総合、地理総合そういう風になっていきながらと大枠は決まっていると思いますし、必履修科目、最低取得単位数は大きく変わるものではないんで、普通科の教育としては大きく変わらない。高校というのは、実は単位制と書いてあるものだけが単位制ではなくて、全ての学校で、単位を取らなければ、修得しなければならない、それは最低単位は74単位です。74単位修得していなければならない。ただ必修科目であっても必履修であるから、その授業を受けていて評定例えば1でも認められるという、それはそれぞれ学校ごとの内規になります。ですから、私が大元に言ったのは、普通科の大きなくくりの中で考えていく。ただ、●●先生がおっしゃったとおり、そうなりますと公立高校ですと人が多く配置されなければならない。それには財政的に厳しいだろうと言うことで、ですからこれは学校を統合していきながら、地域割りみたいになっていますけれど、資料の県内の高等学校の一覧とあるんですけれど、その地域一つの普通高校、単位制でも同じことだと思います。そして一つの総合学科高校があれば、産業界にも当然貢献できる人材が輩出できるようなことになっていきます。先ほど●●委員からもあったんですけれど、やはり、どうしても進学に特化したような、学校の特色としてつきやすいのが進学になってしまうんで、進学に特化したようなコースばかりになってしまうのは、私も本当にいかがなものかと思いまして、これから山梨は高齢化が進むんで、福祉の人材というのは本当に必要になってくると思います。そうしたら普通科の中にもそういうコースというのは作れるはずです。実際甲斐清和高校さんはやっています。甲斐清和高校さんがやっていたり、私立高校ではいくつか。美術の要請もありますから、うちも美術、コースとしてアスリートコースもやってます。ある意味で何を言いたいかというと、私立が無償化になっていくところを県としてはきちんと検討していただきたいと思います。私立学校が無償化になる閣議決定がされているはずです。それが東京都では760万でしたっけ、のご家庭の収入までの生徒は東京の私立学校の授業料の平均値が家庭に行っていますから、山梨も同じような基準でやっていただいて、それにはやはり財政が必要だと思うんで、公立学校さんとしては、そうすれば公立学校と同じような経済的負担で私立学校に行かせることができるんで、そこを踏まえて人材の活用という点を踏まえれば、そういう点も考えていただければありがたいかなと思います。

（委員）
　根本的な疑問なんですけれども、山梨の場合はキャリア教育を中心として専門分化にかなり分かれていますよね。私なんか高校は普通科でしたから、それでもう国語なんか英語なんかを個別に古典だとか現代文だとか分解して考えると18科目になって毎日大変でした。それから50年経って、知識、技術は飛躍的に増えている。法律もいっぱい増えているし、社会的な国際化も増えているわけです。そういう中で、全体のグローバル化だとか情報科だとかそういうものももちろん取り入れて、そしてかなり専門的な職業の技術につながるような教育を3年間でやろうと。僕は不可能じゃないかと思うのだけれど。本当に、鉄道にしても車にしても、そういう具体的な現実の生活、現実の職業に役立つような知識・能力を3年間で作れるのか。飛躍的な技術の進展を考えてみると、大学院まで行かないと吸収できないぐらい技術、知識が増えているわけだろうと思うんですけれども、実際15歳、16歳、せいぜい17歳ぐらいなんですか、そういうような、ちょっと表現悪いけれども、●●を追いかけているようなね、そういう興味しかないような人たちにかくも高度な教育が本当にやれているのかっていう根本的な疑問があるんですけれども、どうなんでしょう。

（議長）
　確かに先生のおっしゃるとおりで、時間には制限があるので、どういったところをポイントとして学ぶかというところが一番大事なことになろうかと思います。
　何か事務局からはございますか。難しいですかね。わかりました。

（委員）
　大学でも20歳以上の男性に行政学とか特に帝王学ですよね。自分の心の管理もできないし、動機付けもはっきりしない学生に、国家社会をいかにコントロールして多様性の社会を作っていくのか。アメリカはとにかく大学院でやっているわけですよ。そういう学問を18、19の生徒に教える。なかなかついて行かないんですよね。それにも関わらず高校レベルの社会がどうなっているのかということも分からない。自分の心の動機もコントロールできないんであろう中学校卒業したばかりの子に、かくもレベルの高い知識を導入して、本当に破綻しないのかな、と思うんですけれど。現場の先生方は、情報にしても、これはゲームの一環だから、という風な形で食い付かしているのか、それとも、それぞれの分野にしても、語学にしても全部社会の動き、政治の動きと密接につながっているわけね。で、自分の心のコントロールもできないのに、どのように国際社会の秩序を作っていくかっていうような問題意識を持ちながら勉強して、そしてグローバル人材だとか地域社会のリーダーとか、そういう理念は素晴らしいけれども、本当に学習できるのっていう根本的な疑問があって、要するに先生方もかなり何十年もかけて培った専門知識、それをですね中学校卒業して隣の学生に●●し、キャッキャッ言っているような生徒に、かなりかくもレベルの高い、人類最高峰の知識を導入して、しかもたったの3年で、すごいリーダー的な知識、技能にまで高めていける、本当にそうなのか。大学院まで出てもですね、犯罪を犯すような学生はいっぱいいるわけで、そういう心とのバランスを取りながら、科学技術の粋を教え込むのは、先生方非常に大変だろうなとおもうんですけれども。心の未熟な生徒に対してたくさんのことを要求しすぎているんじゃないかっていう風に私は思うんですけれど。さっきのは大丈夫なんですかね、根本的な疑問なんですけれど。

（議長）
　お答えがないと思いますが、まさしくおっしゃるとおりで、特に段階ですよね。それぞれの成長の段階とかを見ながら、高校教育でどこまでやるかというところが今後の議論の軸になっていくのかなと思います。
　他にございますか。

（事務局）
　実は、本日欠席の委員の中で、観光の代表と言うことで●●委員の方からちょっと意見を頂戴しています。先ほど紹介すべきところでした。
　最初のところのイノベーションリーダー、グローバルリーダーの育成のところでお話をさせてもらいたかったところですが、この意見は観光という意見ではなくて子どもを育てている母親の視点からの意見ということで紹介させていただきます。こんなことを言っておられました。グローバルリーダー、イノベーションリーダーの育成ということですので大学受験を見据えてという前提の下での意見でした。早い段階からの教育を考えた場合、通常は中学3年間の教育をし、そして受検をし、高校でまた3年間の学習という手順なんだけれども、3年ごとに完結していて、途中で途切れてしまう。途切れることのない教育課程で6年間一貫の教育も少し余裕があって良いのではないか。県立でも中高一貫併設型があれば、多くの生徒が望むのではないでしょうか。そういう学校の選択肢があっても良いと思う。ということで、お子様がまだ小さいということでこういう御意見をいただきましたので御紹介させていただきました。

（議長）
　●●先生のお話とかなりマッチする部分があると思います。
　他にいかがですか。

（委員）
　やはり、今事務局の方で言われたように、中学校と高校ではかなり落差と言いますか、溝が大きいような気がするんですよね。そういう意味で中学校から一貫して6年間教わって、先輩から知恵をもらったりですね、激励を受けたりしながら、そして連続性のある勉強をしたらお

そらく1年ぐらいは余裕ができて、たくさん勉強できる。私学の一流校って言うのはなぜ大学進学率が高いかって言うと、通常の公立と比べて1年ぐらい早くやっていて、高校3年の時には入試問題だけで良いという、そういう勉強の仕方をしているからですね。そういう意味で中学校の段階でかなり無駄があるような気がしますよね。そういう意味で、一貫校、中学校と高校との一貫校にするとかなり無駄が省けるんで、私学だけではなしに公立でも中高一貫校の単位制がもっと増えるとかなりのレベルまで行くんだろうなあ、と思っております。

（委員）

ちょっと前の話になるのですが、今の教育で育っている子どもたちが一律でどうかという問題ではなくてですね、中にはものすごい優秀な子もいるんですよ。こんなに優秀な子がいるのかと言うぐらい。すごいできる子はできると思うんですね。ただ、その差が激しくなったと思うんです。中層というか、先ほどチームを作る中のマネジメントということがありましたが、別にものすごい優秀な人材でなくて良いんです。コミュニケーション力と言うか、人をまとめる力があれば良くてですね、学歴がなくてもと、そう思うんですね。ただ、今の教育で見ても、例えば僕の身内だとか知っている子たちとかを見ると、こんなことができるんだ、こんなことが分かるんだ、こんな勉強しているんだと、僕らの高校時代とは全然違う学力を持っている子もいることは確かですし、実際に僕らの業界の中でもですね、例えばどこかのコンサルタントを頼んで何かをしてもらうときに、そこに出てくる20代、30代の方がすごい人でですね、そうすると本当に正直この中の一人でもうちに来てくれたら、2年のうちには僕の代わりでも良いし、管理者でもいいぐらいな人材がいるんですね。世の中にいっぱいいるんだと思うんです。ただそれが、その業界の中では、ハイレベルな業界の中ではそこまで苦しい競争をしてハイレベルな中でやっているんですが、そういう人がちょっとわれわれのところへ来てくれると、まったく違う、余裕を持った人生があるんじゃないかという風にちょっと思っている、というぐらいなのですが。ただその中で、ただ本当にわれわれの中でも、その業界々々の中での地位というかですね、生活の仕方があると思うのですが、そこがどんどんそのすごい高いレベルの競争のところの人材を育てるのも必要だと思うんですが、そうでない中層のわれわれの中でもしっかりできる人材を育てていくというのが大事かなと思うところです。なので、本当に、われわれの業界の中でもたいした学歴はないけれども、ものすごい経営者っているんです。すごい事業等に発展させている経営者が。そういうのを見ても共通して言えるのは、人の付き合いをすごい大事にしている人とかですね。そこをできる人材というのが今なかなか少ないかなと思っていますので、そういった教育を何かしていただけるという風に期待しています。

（議長）

他にいかがですか。よろしいですか。

ありがとうございました。それでは、今までご発言いただきました意見を元に振り返りたいと思います。

本日は、全日制高校の各学科・コースなどの今後の方向性につきまして、いくつかの場合分けをして御審議いただきました。

まず一つ目の「将来のイノベーションリーダー・グローバルリーダーの育成」につきましては、分かりやすい学科・コースの構成の仕方、あり方、あるいはインフォメーションの仕方、そういうところについての御意見をいただきました。

また、日本を牽引する意識や大学等上級学校への接続を意識させる教育、先ほど●●先生から中高一貫という話が出ましたけれども、そういったところへの連携、接続が大事ということもございました。

二つ目の「本県地域経済を支える産業人材の育成」に関しましては、特に●●委員から農業とか工業とか商業の連携や、産業の連携を考えて、そういった教育の仕方が大事だと。ある意味、よく今言われるトータルな学習とか横断型学習、そういったことの必要性についてのお話をいただきました。

また、資質・能力の根底ともなるような人間性、一番最後に●●委員からも意見を出してい

ただきましたが、そういった人間性とかですね、あるいはコミュニケーション能力、そういったものも大切だという意見をいただきました。
　また、興味や面白さを感じるような教育、モチベーションを高めていくということですね、あるいは山梨という地域でぜひ仕事をしていきたいとか生きていきたいとか、そういった意識付けも大事だという風な御意見をいただきました。
　また、最後の「多様な分野の人材の育成」に関しましては、これも●●委員からのお話で、具体的には福祉系の人材、これも先ほどの●●委員の発言と関連しまして、さまざまな産業の垣根を越えた、そういった形での育成が大事だということ。
　それから、●●委員から、普通科の中に理数系があるのですが、理数系以外にも学科・コースといったものの必要性というものもお話しいただきました。
　また、こういったグローバルな、あるいは専門的な知識を得ていく、学習していくためにはやはり段階が必要だということで、●●先生からもお話いただいたんですけれども、高校でどういった学習が可能なのか。それは中学とも、ひょっとするとその後の大学とか短大とか専門学校とも併せてですね、そういった連携を考えた上での高校の学習の発展につなげるというところも大事だと思っております。
　そして普通科に関しましては、先ほど課長からお話もいただきましたが、国の方でも制度改正の方向もありますので、これを踏まえて、今後この審議会でも議論して反映させていく必要もあるかと思っております。

　本日もたくさんの御意見をいただきましてありがとうございました。
　委員の皆様には、今日もそれぞれのテーマにつきまして、それぞれの経験から御意見をいただきました。本日の審議内容につきましても、事務局にて整理をしていただければと思います。
　また、このテーマに関しまして、何か情報あるいは御意見等がございましたら事務局の方に御連絡いただければと思います。よろしくお願いします。

（１）議題2「その他」
　次に、「（２）その他」ですが、委員のみなさま、事務局の方、何かありますでしょうか。
　よろしいでしょうか。

　それでは、私からですけれども、以前の審議スケジュールでは、次回2月には各地域における高校の将来像といったものを予定しておりました。一方、これに関連する高等学校の規模につきましては、３月をめどに考えていくことと以前の審議の中でまとめさせていただきました。したがって、高等学校の規模とあわせて考える必要がございますので、次回の審議では行わず、少し先の審議会においてこのことを考えることとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。
　よろしければ、次回２月の審議会は、定時制、通信制を議題として載せていきたいと思います。また、３月に予定していた項目でも、前倒しで審議できそうなものがあれば、事務局と一緒に検討させていただきまして、審議できればと考えていますので、よろしくお願いします。
　それでは長時間にわたりましてありがとうございました。本日の議事を終了いたします。御協力ありがとうございました。

（議事終了）